



Health Sciences Leadership Program

履修要項

2016 年度春履修開始学生用

東京医科歯科大学

目次

趣旨と背景.....	1
育成する人材像.....	3
本プログラム修了までに修得すべき資質（コンピテンシー）	4
アドミッションポリシー.....	5
カリキュラムポリシー.....	6
修了要件、履修継続要件.....	12
履修方法、履修取消、成績、授業時間、講義室.....	14
本プログラム修了までに履修生が修得すべき資質（コンピテンシー）、 およびその習得方法（学習方略）	15

背景と趣旨

日本が国内での対応に追われ、海外への視野を閉ざしていた、バブル崩壊後の 20 年間に、積極的な海外の国々は市場や事業運営においても、世界へとフィールドを広げた。そして現在先進国と発展途上国との格差はさらに狭まり、国家間の数々の垣根も徐々に取り払われてきた。今こそ日本も積極的な世界展開を図り、躍進を遂げなければ、もはや主要国としての地位を保つことはできない。しかし現状は、日本から海外への留学者数は減少する一方で、海外勤務を希望しない若手社員は増加している。他のアジア諸国が積極的に海外留学数を増やしている中で、日本はむしろ遅れをとっている。

医療においても例外ではない。確かに日本は、がん治療や内視鏡検査などでは高度な医療水準を保有し、人口 100 万人当たりの医療機器保有台数も他国に比べると群を抜いて高い。そして、これら先進機器に加え、世界に誇れる国民皆保険制度により、世界最高水準の平均寿命を実現している。しかし、情報技術の革新と人の移動の増加により医療の国際標準化のニーズが高まりつつあるなか、日本の医療現場の実情はどうであろうか。以前より大病院では「3 時間待ちの 3 分診療」と揶揄されてきたが、高齢化により医療保険財政がますます逼迫し、医療提供者の勤務はさらなる過酷化が予想される中で、国際標準に沿った質の高い医療を提供するのは容易ではない。実際、医療の国際標準化を目的とした国際的病院評価認証機関（Joint Commission International, JCI）により認証を受けた国内医療機関は 2016 年 1 月時点でたった 16 病院しかない。一方、他のアジア諸国では、既に多くの医療機関が認証を受けている。さらに深刻なのは、提供される医療の国際標準化の遅れだけでなく、医療を創り出す生命科学研究、国際保健・医療政策、そして医療産業の分野においても、グローバルな舞台における日本のプレゼンスがどんどん失われつつあることである。

例えば生命科学研究分野では、現在日本は医薬品・医療機器分野でも輸入超過に陥っており、その基盤となる基礎研究における国際競争力が低下している。論文数を研究活動のアウトプットとしてみた場合、日本は米中英独に次いで第 5 位まで落ち込んでいる。各分野の Top10%論文数シェアでは日本の低迷はさらに顕著であり（米英独中仏に次ぎ第 6 位）、国際共著率も低い（英仏独米に次ぎ第 5 位）。さらに、大学院生や教員において内向き思考が広がっており、海外研究留学希望者数も減少している。

また、国際保健/医療政策分野では、日本は国連拠出金が米国に次いで第 2 位であるにもかかわらず、他の国連機関と同様に、世界保健機関（WHO）においても日本人スタッフ数は、加盟国中でもかなり低い（人口や拠出金額から概算される望ましい職員数の 23-31%程度）。これは、志願者が少ないからでは決してなく、特に語学力の観点から我が国からの応募者が選考に耐えられないことに大きく起因している。本分野におけるリーダーの輩出は喫緊の課題である。

医療産業分野については、例えば近年アジア各国では医療観光産業が発展しているが、日本にはそれらの国を上回る高い医療技術・サービスがありながら、大きく出遅れている。政府の新成長戦略のもと観光庁が進める医療観光等医療産業分野の発展のためには、高い英語

運用力のもと質の高い医療サービスを提供できる人材育成が遅れている。

このような、日本の医療における国際標準化の遅れ、そして医療の革新・医療政策・医療産業という分野での日本のプレゼンスの低下は、世界の共通言語である英語の運用力が低いことだけではなく、世界という広い視点のもとで、世界において日本が果たすべき役割を理解し、その上で複雑な国際医学・医療問題の解決のために様々な文化背景の相手と建設的に議論・協同できる高い教養と知的スキル・対人スキル・リーダーシップスキルが欠如していることにも起因している。

成熟した国家である日本が、主要先進国として、今後、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引し、人類の発展に健康面から貢献するためには、それら分野でグローバルな舞台でリーダーとして活躍する人材の育成が急務である。

本学は、「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」という基本理念の下に、「幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養」、「自己問題提起、自己問題解決型の創造的人間の養成」、そして「国際性豊かな医療人、研究者養成」という三つの教育理念を掲げ、これまでに教育および研究における国際化を積極的に進めてきた。それを受け、グローバルなキャリアを志す学生が本学には多く入学してくる。実際、入学直後に施行しているTOEFLの平均点は年々高まっており、また卒業までに海外留学を経験する者の比率も上昇しつつある。その本学が、日本が主要先進国として生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担う、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し変革を生み出すことのできる人材を育成することは、本学に課せられた使命であると認識し、ここに本プログラムを開設するに至った。

育成する人材像

成熟した国家である日本が、主要先進国として、生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担う、グローバルな舞台でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成する。

【共通する点】

- ・ 日本人としてのアイデンティティに誇りを持ち、日本の歴史／文化／制度に習熟しており、世界において日本が果たすべき役割を十分理解している。
- ・ 文化（歴史／経済／宗教／習慣／行動様式／食生活など）や価値観を異にする人達とふれあう経験を豊富に積み、文化および価値観における多様性を十分理解し、尊重する。
- ・ 世界共通言語である英語の、言語としての運用力のみならず、英語母語者／非母語者を含めた様々な人達を相手に英語で議論でき、協働し、そして、リーダーシップを発揮して様々なステークホルダーに変容を起こし、医学・医療・社会に変革を生み出すことができる。

【活躍する分野に特異的な点】

- ・ 生命科学研究分野におけるリーダー
 - 高い問題解決能力と十分な臨床経験を基盤に生命科学研究に従事し、国内のみならず、国外も含めた最先端研究機関に積極的に応募/在籍し、切磋琢磨を通して世界最先端の研究を行うとともに、当該研究分野におけるリーダー/フロントランナーとしてその発展に貢献する。
 - 生命科学研究分野での後継者育成に国内外で尽力する。
- ・ 国際保健/医療政策分野におけるリーダー
 - 疫学/統計/環境/医療政策/社会・行動科学に関する深い理解があり、また高い倫理観を有する。
 - 学士課程修了後、高い専門技術の修得および専門領域での豊富な経験を積み、それら専門的背景を持った上で国際保健/医療政策決定機関に従事し、中心的役割を果たす。
 - 国際保健/医療政策分野での後継者育成に国内外で尽力する。
- ・ 医療産業分野におけるリーダー
 - 世界共通言語である英語の、言語としての運用力のみならず、英語母語者/非母語者を含めた様々な人達を相手に英語で医療サービスを提供できる高い能力を有する。
 - 学士課程修了後、高い専門技術の修得および専門領域での豊富な経験を積み、それら専門的背景を持った上で医療産業に従事し、同産業を牽引する。

本プログラム修了までに修得すべき資質（コンピテンシー）

前述した趣旨および育成する人材像にもとづき、本プログラム修了までに履修生が修得すべき資質（コンピテンシー）を、以下のように規定した。また、育成される人材がグローバルな舞台上でリーダーとして活躍し変革を生み出すにおいて、それら資質群が有機的に作用しあう機序を示す図を右下に付した。なお、各コンピテンシーについての詳細および習得方法を記した表が、本要項最後に付されている。

【Technical Expertise】

- 基礎医学知識※¹
- 臨床知識※¹
- 公衆衛生学知識※¹
- グローバルヘルス知識
- 関連する人文社会科学知識
- 語学力

【Teambuilding Functions】

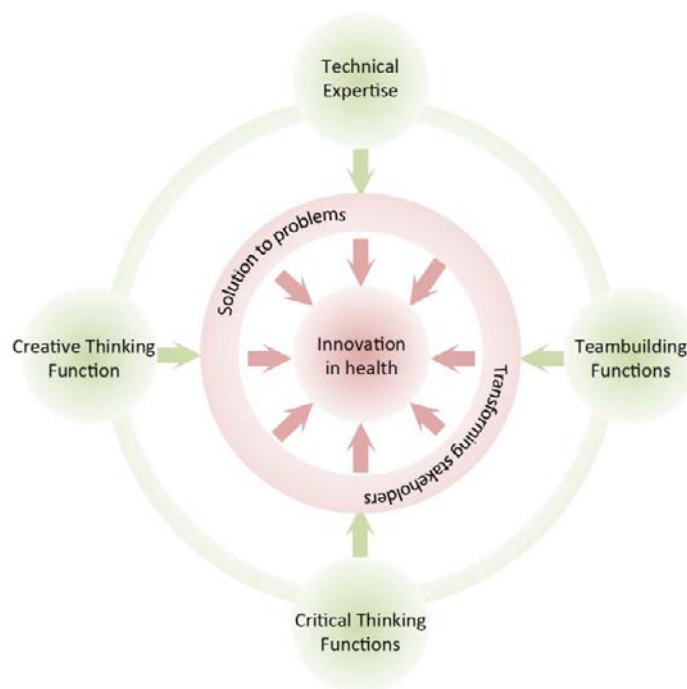
- 異文化知識・対応力
- チームワーク
- マネジメントスキル
- リーダーシップスキル

【Critical Thinking Functions】

- クリティカル・シンキング・スキル
- 情報リテラシー
- 探求・分析力
- 読解力
- 口頭コミュニケーション能力
- 文章コミュニケーション能力

【Creative Thinking Functions】

- 創造的思考力



育成される人材がグローバルな舞台上でリーダーとして活躍し変革を生み出すにおいて、本プログラムで獲得する資質群が有機的に作用しあう機序を示す図

※¹ これらの系統的学習は各学科教育課程において適切な目標設定のもとに行われるため、本プログラムではそれら知識の応用・統合に主眼を置く。

アドミッションポリシー

本プログラムが掲げる育成目標に鑑みて、本学第1学年学生※¹のうち、下記に該当する者を求める。

- ・ ヘルスサイエンス領域における将来のグローバルリーダーを目指すという視点から、前項で記した資質（本プログラム修了までに履修生が修得すべき資質（コンピテンシー））の習得の重要性を十分理解し、それに対して強い意欲・熱意を有し、コミットできる
- ・ 入学後の修学態度が良好である
- ・ 本プログラムが掲げる育成目標達成の観点、および本プログラム履修および正規科目履修に支障を来さないという観点から必要とされる一定レベル以上の英語運用力を有する

※¹ 編入生も含め、若干名に限り、年度末に追加募集を行い第2学年前期からの履修を許可する場合がある。その場合、同様の選考基準・選考過程により選考する。なお、学業不振により留年した学生は除く。

カリキュラムポリシー

- ・本プログラムのコンピテンシーは、知識伝達型の授業などで短期的に修得できるものではない。したがって、授業では将来直面するであろう現実的で複雑な問題への取組（ケースメソッドやプロジェクトワークなど）を通して、低学年のうちから、学習ステージに適した形で実践的にそれらを修得する（スパイラル・カリキュラム）。また、科目の一部または課外セッションとして、適宜ワークショップなどを実施する。
- ・ **Technical Expertise** におけるコンピテンシーで、その理解/応用のために系統的/包括的な学習機会が必要と思われるものについても、できる限り問題解決取り組みに絡めて効果的に学習できるようカリキュラムを組む。
- ・学習セッションは基本的にすべて英語で行う（一部において、学生の学習段階および理解/応用順序を考慮して、日本語による学習機会を設ける場合がある）。英語運用力アップが必要な履修生に対しては、英語を母語とする教員による少人数特訓コースを提供する。
- ・学習は、科目内で設定される全体セッションの他、グループおよび個人レベルでの取組を通して行われる。また、グループでの取組の補助として、そして個人レベルでの学習成果の蓄積および省察/自己課題設定/メンターによるフィードバックを目的として、e-portfolio システム「e-SALON (e-portfolio for Students Aspiring to be Leaders in health sciences Of the Next generation)」を活用する。
- ・海外留学参加を本プログラム修了要件とする。各履修生の長期的キャリアビジョンに沿った時期/内容の海外留学参加を通して視野を広げ、キャリアビジョンをより確立させ、そしてそれまでに修得した能力を更に磨く。単位取得を伴う海外留学プログラムのほか、海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮される。
- ・高学年においては後輩の学習にチューターとして参加し、議論を深め刺激するとともに、教えることにより更に学習する（チュータリング「Tutoring Requirement」）。
- ・各科目の履修修了判定を得るためには、あらかじめ各科目で規定する修了要件を満たさなければならない。なお、履修修了に際する出席要件としては、東京医科歯科大学試験規則に准じて、講義及び演習では当該授業科目の授業時間数の3分の2以上、実習では当該授業科目の授業時間数の4分の3以上の履修を必要とする。
- ・本プログラムの履修科目については、全学科共通自由科目として単位付与を行う。
- ・学生の利便性および所属する学科/専攻における授業時間割に配慮し、授業時間を設定する。学科/専攻における時間割状況にもとづき、本プログラム科目の一部について規定時間帯の履修が不可能な場合においては、録画映像を通しての履修や長期休暇などにおける補講などにて対処する。
- ・医学部医学科および歯学部歯学科学生においては、他学科学生に比してより深い基礎医

学知識/臨床知識の理解とその応用力養成の必要性が高いことから、本プログラム修了のために履修が必要な科目数が他学科/専攻の学生と比較して1つ多い（Problem-solving in the Health Sciences）。

- ・ 専門職業人育成のための教育機関であることに起因する授業時間割の過密さと学生への負担軽減に配慮し、本プログラム科目の履修時期には可能な限り余裕を持たせる。

以下に、本プログラムにおける必須履修科目を記す。

科目	授業責任者	講義等の内容
Moral and Political Philosophy for Medicine (MPP) (1 単位)	高田和生	This course will examine ethical, economical, and political, as well as scientific aspects, of some important health policy issues currently facing the world. This course will thus cover, through the examination of those issues, relevant areas of philosophical theories, economics, including political and historical analyses to allow learners to understand background issues, history, and constraints, so as to be able to make a positive contribution to current debates. Throughout the course, learners will have ample opportunities to exercise and sophisticate many of the skills listed in the program's graduation competencies, such as critical thinking skills, inquiry and analysis, information literacy, communication skills, leadership skills, and teamwork.
Introduction to Medical Anthropology (IMA) (1 単位)	Rebecca Carlson	As an introduction to Global Health topics, this class focuses on contemporary real world health issues from a biosocial perspective. Students will analyze specific case studies to consider the way that social elements shape individual experiences of illness and how history, power and social inequality contribute to ongoing health disparities around the world. These problem-based studies will allow students to synthesize and use their critical and creative thinking, and will also contribute to the development of their teambuilding and information literacy skills.
Bio-social Research Methods (BRM) (1 単位)	Rebecca Carlson	Building on the biosocial concepts introduced in previous classes, students in this course will develop a semester long research project on a global health topic in order to further explore the relationship between biology and society. These individual research projects begin with an exploration of biomedical topics, including research on pathophysiology and clinical presentation, and then expand to include an examination of the social and structural determinants that shape the illness experience for individual patients and societies more broadly. In addition, students will be introduced to various quantitative and qualitative research methods to understand how these approaches shape analysis, and ultimately policy making in the health sciences. These research projects will also allow students to further develop their knowledge of global health topics, as well as their critical thinking, communication and information literacy skills.
Decision-making in the Health Sciences (DHS) (1 単位)	Rebecca Carlson	Natural and human-made disasters are critical moments from which broader issues of healthcare delivery and related governmental and institutional decision-making can be analyzed. As such, they reveal the way plans and policies can be challenged, and care can have unintended, and even life-threatening, consequences. Building from student's knowledge of healthcare industries and policy-making covered in previous courses, this course will focus on decision-making and knowledge production in disaster settings through cross-cultural comparisons of real accidents and emergencies. These group-based case studies will allow students to further develop and hone their decision-making, problem solving, leadership and teambuilding skills.
Problem-solving in the Health Sciences (PHS) (1 単位)	高田和生	As the last course to undertake in HSLP, this course will challenge you with difficult tasks and force you to use and sophisticate all the skills listed under the HSLP graduation competencies. For this purpose, we will use problem-based learning (PBL) in this course. The course is structured around cases which will be chosen carefully from important contemporary issues in medicine, and tasks will be formulated so that they are complex, difficult, and challenging, and require a well-thought out step-wise plan to solve. Each group will have a fixed tutor throughout the course who will assess the group's problem solving and individual student's participation as well as contribution to their group's problem solving, leadership skills, management skills, and teambuilding skills for summative as well as formative purposes.
Contemporary Japanese Society (CJS) (1 単位)	Rebecca Carlson	From intimate perceptions of "quality of life," to the geo-politics of the 2014 Ebola crisis, medicine is only ever practiced and received through culture. As contributors to a global health care community, young medical practitioners benefit from an understanding of modern health care as a fundamentally socio-cultural domain positioned at the intersection of the science of medicine and cultural values and ideas regarding sickness, the body, and life itself. Through an examination of contemporary Japanese society, this course introduces students to the basic social science concepts necessary to first recognize and then critique the impact of society on individual health, clinical practice, health care systems

		and bioscience research. Specifically, course topics will consider the development of Japan as a modern nation-state and the myths and ideologies that support everyday life in the 21st century. This course will prepare students for future HSLP courses, and build a foundation of knowledge and analytical skills that will enrich students' continued studies in the health sciences.
Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT) (1 単位)	Janelle Moross	Building on the Critical Thinking Boot Camp, Applied Critical Thinking for Health Sciences will allow students to critique health-science-related topics. A typical workshop will involve a receiving brief introduction to a topic which allows room for disagreement, discussing it, building a logical argument with a partner, presenting this in small groups, and critiquing it according to the standards of critical thinking. Students will provide peer feedback. This course will involve no homework.
Fundamentals of Global Health (FGH) (1 単位)	春山 怜	From infectious disease outbreak to global burden of non-communicable diseases, maintaining a healthy population is increasingly a challenge as the world population becomes more mobile and diverse and as people come to live longer in both developed and developing countries. This course is designed to provide students with a basic understanding of global health landscape and the factors that structure health inequities around the world. It will first examine the way biological and social (political, economic, environmental, and cultural) factors issues are intertwined in the human experience of health at the individual and societal levels, and then explore major issues of global health. Students will have ample opportunities to analyze current controversies and seek solutions to complex health challenges. Key topics are determinants of health, global burden of disease, sustainable development goals (SDGs), global health governance, health systems, and innovations in global health.

以下に、本プログラムにおける必須履修科目の履修時期および履修に際しての必須要件を記す。

科目名	2016年度開講時期	時間*	曜日*	回数	主たる対象者	必須要件
Contemporary Japanese Society (CJS)	夏期 (2週間の集中開講)	10:30～11:50 12:50～14:10	月水金	12	2016年春履修開始学生	特になし
Applied Critical Thinking for Health Sciences (ACT)	前期	19:30～20:50	木	12	2015年秋および2016年春履修開始学生 (いずれも医学科以外)	・ Critical Thinking bootcamp の受講
Fundamentals of Global Health (FGH)	後期	18:00～19:20	木	12	2015年秋および2016年春履修開始学生	・ ACT(旧 GP2)の修了
Moral and Political Philosophy for Medicine (MPP)	後期	18:30～19:50	火	12	2016年秋履修開始学生	特になし
Introduction to Medical Anthropology (IMA)	前期	18:00～19:20	木	12	2015年秋および2016年春履修開始学生	特になし
	後期	17:00～18:20	火	12	2016年秋履修開始学生	特になし
Bio-social Research Methods (BRM)	後期	19:30～20:50	木	12	2015年秋および2016年春履修開始学生	特になし
Decision-making in the Health Sciences (DHS)	前期	18:00～19:20	水	12	2014年秋および2015年春履修開始学生	・ ACT (旧 GP2) の修了 ・ BRM (旧 LHS3) の修了
Problem-solving in the Health Sciences (PHS)	後期	18:00～20:00	水	8	2014年秋および2015年春履修開始学生 (いずれも医/歯学科のみ)	・ MPP(旧 LHS1)の修了または同時期履修 ・ ACT (旧 GP2) の修了 ・ FGH (旧 GP3)の修了 ・ DHS (旧 LHS4) の修了

*学科/専攻における時間割状況にもとづき臨時で変更する場合があります。また、学科/専攻の必須/選択科目履修のため参加できない授業分については補講を行う。

以下に、本プログラムにおける必須履修科目の推奨履修モデルを記す。

推奨履修モデル						
薄赤ハイライト部分が当該学生の2016年度相当部分						
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
2016年秋履修開始学生 (医学科)	IMA/LHS2 MPP/LHS1	ACT/GP2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 CIS/GP1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2016年秋履修開始学生 (医学科以外)	IMA/LHS2 MPP/LHS1	ACT/GP2 CIS/GP1 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2016年春履修開始学生 (医学科)		IMA/LHS2 CIS/GP1 夏期集中開講 にて履修 BRM/LHS3	DHS/LHS4 ACT/GP2 PHS/LHS5 MPP/LHS1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2016年春履修開始学生 (医学科以外)		IMA/LHS2 ACT/GP2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 MPP/LHS1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2015年秋履修開始学生 (医学科)	GP1 LHS1	IMA/LHS2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 ACT/GP2	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2015年秋履修開始学生 (医学科以外)	GP1 LHS1	IMA/LHS2 ACT/GP2 FGH/GP3 BRM/LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2015年春履修開始学生 (医学科)		GP2 LHS2 GP3 LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 MPP/LHS1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2015年春履修開始学生 (医学科以外)	GP1 夏期集中開講 にて履修	GP2 LHS2 GP3 LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5 MPP/LHS1	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2014年秋履修開始学生 (医学科)	GP1 LHS1	GP2 LHS2 GP3 LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		
2014年秋履修開始学生 (医学科以外)	GP1 LHS1	GP2 LHS2 GP3 LHS3	DHS/LHS4 PHS/LHS5	Tutoring Experiences 卒業までに規定回数を要修了		

- 緑： 既に履修が済んでいる科目
- 赤： 医学科と医学科以外の学生により推奨履修時期が異なる科目
- 黄色： PHS (旧 LHS5) は医/歯学科学生にも履修が必須

履修計画策定・変更に関しては、早期にメンター（教員）に相談すること。

修了要件、履修継続要件

履修継続の承認および修了認定は、各学科教育委員会にて承認を受けた後、各学部教授会で最終判定を行う。

医学部医学科学生および歯学部歯学科学生

(第1学年から第2学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA^{※1} が原則 2.5 以上
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第2学年から第3学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA^{※1} が原則 2.5 以上
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第3学年から第4学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第4学年から第5学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第5学年から第6学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(本プログラム履修修了のための要件)

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目を全て履修修了していること
- ・ チュータリング^{※2}を修了していること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100 点以上
- ・ HSLP のコンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること (海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮されうる)

※1 各学科専門科目履修内規による。なお、選択科目であることから HSLP 科目は GPA 計算式に算入しないこととする。

※2 詳細はチュータリング要項に記載。

医学部保健衛生学科学生および歯学部口腔保健学科学生

(第1学年から第2学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA^{※1}が原則 2.5 以上
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第2学年から第3学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 入学からの通算 GPA^{※1}が原則 2.5 以上
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(第3学年から第4学年への進級に際しての本プログラム履修継続のための要件)

- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること

(本プログラム履修修了のための要件)

- ・ 本プログラムにおける必須履修科目を全て (Problem-solving in the Health Sciences (PHS)を除く) 履修修了していること
- ・ チュータリング^{※2}を修了していること
- ・ 本プログラムにおける修学態度が良好であること
- ・ TOEFL iBT 100 点以上
- ・ HSLP のコンピテンシーすべてについて Capstone に到達していること
- ・ 単位取得を伴う海外留学プログラムへ参加していること (海外の公衆衛生大学院など、本学の単位の取得を伴わない留学についても考慮されうる)

※1 各学科専門科目履修内規による。なお、選択科目であることから HSLP 科目は GPA 計算式に算入しないこととする。

※2 詳細はチュータリング要項に記載。

履修方法、履修取消、成績、授業時間、講義室

1. 履修方法

履修登録は、所定の期間内に登録の手続きを行わなければならない。履修登録の受付はグローバルキャリア支援事務室にて行う。

2. 履修取消

履修取消とは、一旦履修登録した科目を大学の定める一定期間（各科目の第3回目授業が開始されるまでとする）に本人からの請求により、履修を取り消すことをいう。履修取消を行った科目に関しては、成績証明書に記載されない。履修取消の手続きは、所定の様式によりグローバルキャリア支援事務室に提出する。なお、期間内に履修取消の手続きを行わず、自ら履修を放棄した場合は「不可」評価とする。

3. 成績

履修科目の成績は、本学学部専門科目履修規則に準じて付与される。各科目の責任者が成績評価を行い、その結果をグローバル人材育成推進事業推進委員会より各学科教育委員会に提出し、承認を受けた後各学部教授会で最終判定を行う。

4. 授業時間

	開講時期	曜日*	授業時間*
Contemporary Japanese Society	夏期 (2週間の集中履修)	月水金	10:30～11:50 12:50～14:10
Applied Critical Thinking for Health Sciences	前期	木	19:30～20:50
Fundamentals of Global Health	後期	木	18:00～19:20
Moral and Political Philosophy for Medicine	後期	火	18:30～19:50
Introduction to Medical Anthropology	前期	木	18:00～19:20
	後期	火	17:00～18:20
Bio-social Research Methods	後期	木	19:30～20:50
Decision-making in the Health Sciences	前期	水	18:00～19:20
Problem-solving in the Health Sciences	後期	水	18:00～20:00

*学科/専攻における時間割状況にもとづき臨時で変更する場合がある。また、学科/専攻の必須/選択科目履修のため参加できない授業分については補講を行う。

5. 講義室

授業はM&Dタワー8階のグローバルキャリア支援室「G-Lab」にて行われるので、場所を把握しておくこと。また、HSLP履修生用ラウンジを利用することができる。なお、G-Labおよびラウンジ等に個人の所有物などを放置しないように注意すること。